

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－
ワークショップ実施計画書

制作団体名	株式会社 影向舎
公演団体名	公益社団法人 宝生会

内容



講師:シテ方(3人)、狂言方(1人)
時間:1時間30分

1. はじめまして能“楽”
2. 【実演】～能って？狂言って？～
3. 【体験】～能楽師になってみよう～
4. 【体験】～能楽しぐさクイズ！～
5. 能楽の成り立ち  プロジェクター
6. バーチャル能楽堂体験  オリジナル動画
7. 【体験】能楽体験ひろば
8. 【稽古】本公演にむけて～謡ってみよう～

狂言

両者がお互いの違いを
実演することで
目で見えて触れて、違いを実感！

能

 ワークショップのポイント

 とにかく分かりやすく・楽しいプログラム構成

能楽という芸能の魅力を、身近なものとして記憶に残してもらえるよう体験・映像を効果的に構成。

 オリジナル動画で能楽を体感

一般的な紹介映像にはない、オリジナル作成のバーチャル能楽堂体験など、体育館にいながらにして、能楽堂の雰囲気を楽しめる動画を上映。

 全員で体験

装束を羽織る、能面を掛ける、狂言の大きな笑いを響かせる・・・ 身に付け、発信して能楽を体感。

1 はじめまして能“楽”

知る

どこからかお調べが聴こえてくる…

舞台上手側から能の役者がすうーっと入ってきて
美しく舞い謡いはじめた。



「げにさまぎまの舞姫の
声も澄むなり住吉の 松影も映るなる
青海波とはこれやらん」

能の役者たちは静かに舞台袖へと消えていった…

すると今度は、舞台下手側から狂言の役者が入ってきて
大きな声で名乗りはじめた。



「東京に住まい致す狂言方の者でござる。
今日は〇〇へ参ろうと存ずる。まず、そろりそろりと参ろう。
いや、なにかと言ううちに、はや〇〇じゃ」

一体これから、何が始まるんだろう…？



みなさん、こんにちは！！

びっくりしましたか？



最初に扇を持って厳かに舞を披露したのは“能”、

大きな声で名乗りをしていたのは“狂言”です。

このワークショップは、能楽を構成する二本柱の能・狂言を比較しながら楽しんで頂ける構成となっています。

皆さんにとって初めての体験となる“能楽”という未知の世界へこれからご案内します。

2 能って？狂言って？

みる

能楽を構成する能と狂言。両者は長い歴史のなかで、表裏一体となって世界に誇る芸能へと成長しました。喜怒哀楽の表現方法など、その特徴には共通点があり、また似て非なる要素もあり、それが能楽の魅力のひとつです。その違いを分かり易く解説実演します。

能



広げた扇を胸の前で上下させて、歓喜や楽しさを表現する。能の世界では、この表現を“ユウケン”といいます。

狂言



大きな声と全身を使って「ハーツハーツハツ」と豪快に表現する。

喜び



手を目にあてるようにして、涙を抑える。これを“シオリ”といいます。

悲しみ



所作は能と同じ。それに「エッヘッ、エーン、エーン」と大声で泣く。

能楽コラム

能の“シオリ”で手を目にあてる所作は、本来は着物の袂で涙を拭う様子を表現しています。能では着物の袂を実際に持つのではなく、袂がある“前提”で所作をすることで、そぎ落とされた表現となっています。



「地団駄をふむ」という言葉は知っているかな？その動作ととても似ているね。トン、トン、トン！というリズムに乗っています。

怒り



足で地面を強く叩き踏むのは能と同じです。また「腹立ちや、腹立ちや」などのセリフをとまいます。

3 能楽師になってみよう

体験

お稽古の前にきちんとご挨拶



「よろしくお願ひいたします」

能楽には立ち方、歩き方に決まりがあります。それをしっかりと守ることによって、能舞台での美しさが創られます。見ていると簡単そうな基本的な所作カマエとハコビを実際に児童・生徒さんがやってみると窮屈で難しいことを実感できます。

まずは能楽として共通の動きをやってみよう

カマエ

能楽を演じる基本姿勢

ハコビ

振り足で前に進む能楽の基本運歩

背筋を伸ばして、少し腰を落とす！



足を地面にすりながら前に進む…



能楽の基本所作
カマエ ハコビ

…姿勢を保つのが難しいね！

ちょっと能楽師に近づけたかな？

次は、能と狂言の特徴的なしぐさをやってみよう



能

シオリ（泣く）

しぐさ

狂言

笑 う



4 能楽しぐさクイズ！～何をしている？～

Q：下の二人は、それぞれ何をしているのかな？

能



A：.弓をひいている

狂言



A：.ノコギリをひいている

発 見

能・狂言ともに、「ないものがある」と見立てて演じる「想像の舞台芸術」なんだね

5 能楽の成り立ち

学ぶ



プロジェクター投影

能・狂言は長い日本の歴史に育まれ、先人達が工夫と努力を重ねて成立した芸能で、今現在でも成長を続けています。そのような能楽の変遷を、平安時代から現代まで、時代をイメージするスライドを上映し、また馴染み深い戦国武将と能楽の深い関りなどをご説明しながら、楽しくご理解いただきます。



私達も能をよく観ていました！



(奈良時代～) 平安時代

中国から伝わった芸をもとにした
“猿楽”という名で当時は親しまれていました



江戸時代

この頃になると“式楽”と呼ばれ、将軍などに保護されたため、それまでのように庶民は能を観れなくなっていました



鎌倉時代

能楽において重要な人物世阿弥によって、
現代にも伝わる能楽の礎が築かれました



そして現代へ…

その後、明治・大正・昭和という、
能楽界だけでなく、日本にとっても激動の
時代を経て、能楽専門の劇場“能楽堂”が
造られるまでになりました。



時代絵巻

6

バーチャル能楽堂体験

体験



オリジナル動画

宝生会が所有する宝生能楽堂にて、プロの映像制作会社が撮影・編集した迫力ある動画を上映します。客席から舞台を見た様子から始まり、一般の方が絶対に入ることができない能舞台上からの客席を見たい目線、さらには特別な許可を得て、本舞台が上演されているシーンを楽屋、舞台方向から収めています。立体的に能楽堂を体験していただきます。

お客さんの目線



松の絵が描いてあるけど、
何か意味があるのかな？

のうぶたい
能舞台

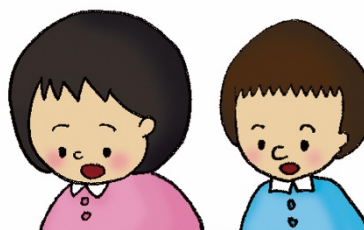
制作：(株)影向舎 協力：宝生会 制作：パワーハウス



室内なのに、屋根がついてる！不思議！
客席の向きも、なんだか変わってるよ！

裏側はこんな風になっているんだね。
鏡の前の人は何をやってるのかな？

なんだか緊張しちゃうね…！



役者の目線



7 能楽体験ひろば **体験**

装束と能面は、能の必須アイテムです。実際に宝生会能楽師が使用する装束・能面を、児童・生徒さんに身に付けてもらい、プロと同じ感覚を体験していただきます。

START!

装束

装束チーム

実際に能の装束を着てみよう。その重さや動きにくさが実感できます。昔の人もこんな服装をしていたのかな？

展示コーナー

能「黒塚」で実際に使われる小道具をご紹介します！そこにはどのような意味が隠されているのかな？

面

おもて 面チーム

面を掛けると視野が極端に狭くなります。

面を持つときは、横についている紐で持ってね

GOAL!

能楽師気分は味わえたかな？

8 能「黒塚」と謡～本公演にむけて～

あらすじ

本公演で鑑賞する能『黒塚』のあらすじと見どころを、簡単にご紹介します。

むかしむかしの、少し悲しいお話です…



旅の山伏・祐慶一行は、陸奥の安達原までやってきました。
あたりが暗くなってきたので、ぼつんと建つあばら家を見つけ、
そこに住むお婆さんに一晩泊めてくれるよう頼みます。

しかし、お婆さんは何故かなかなか家に入れてくれません。
祐慶達に懇願され、どうにか泊めてくれることになりました。
お婆さんは彼らを招き入れ、自分の身の上話をはじめます…。



稽古

能の“附祝言”をやってみよう！



附祝言《つけしゅうげん》

能「高砂」や「狸々」
などのめでたい曲の一節
を抜粋して謡う

能楽の世界では、その日の演能をめでき舞い納めるために、最後の演目が祝言性の低いものだった場合、最後に附祝言を謡ってその日の演能をまとめることがあります。

本公演で観る能「黒塚」のお婆さんは、実は人々を喰らう鬼女であることが分かり、その壮絶な背景と共に鬼女となったお婆さんを、山伏祐慶達は祈り伏せて鎮めます。その幕切れは観る者に様々な感情を呼び起こすことでしょう。

そのため、本プログラムの公演でも、少しでも能「黒塚」のお婆さんの気持ちに、また能楽の奥深い世界を体感していただくために、本公演のフィナーレを出演者と児童・生徒さん全員の謡で飾ります。

ここでは、ワークショップの締め括りとして、附祝言と一緒に練習しましょう。



千秋楽は民を撫で。万歳楽には命を延ぶ。

相生の松風。颯々の声ぞ楽しむ。颯々の声ぞ楽しむ。

～能『高砂』の終曲部分より～



本公演でもやるよ！
覚えていてね！

ワークショップ終了後に、謡を収録した CD を
お渡しします。

タイムスケジュール（標準）
午後 13:00開始の場合 ①11:00以降 主催校に到着 ②11:30~12:30 ワークショップ準備(プロジェクター等) ③12:30以降 児童・生徒さんの入場 ④13:00~14:30 ワークショップ【主催校様のご希望により、時間短縮の可能性有】 ⑤14:30~14:45 ワークショップ片付け ⑥14:45~15:15 本公演打合せ(ご担当の先生と弊社スタッフ)

派遣者数
出演者:4名 スタッフ:1名

学校における事前指導
ワークショップ日以前に教材(児童・生徒さん人数分)をお送りしますので、配布をお願いします。 特段、それによる事前指導は不要です。

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	株式会社 影向舎
公演団体名	公益社団法人 宝生会

演目

本公演プログラム

出演 宝生流シテ方他

時間 1時間40分

- 1、狂言『柿山伏』
 - 2、囃子方の実演と解説
 - 3、能の役割の紹介
- ～休憩～
- 4、ワークショップで覚えた、シオリと附祝言「千秋楽」のおさらい
 - 5、能『黒塚』
 - 6、アフタートーク

本公演のポイント

1 代表的かつ分かり易い演目

狂言は、笑いがあふれ、国語教材にも引用される『柿山伏』。能は主役が、前半は老女・後半は鬼女に変わる展開と秘められた心情の深さが秀逸の『黒塚』をお楽しみいただきます。

2 ワークショップで体験した謡を、演能の締め括りで全員参加

『黒塚』の終わりに、すでに児童・生徒さんがワークショップで体験している附祝言『千秋楽』を構成します。演能最後の見せ場で、プロの能楽師と一緒に謡い、フィナーレを創ります。

3 本格的な能舞台・大型スクリーン

能楽鑑賞には必須条件である能舞台を本格的なスケールで設営します。また舞台上手には、大型スクリーンを設置し、『黒塚』の現代語字幕の投影や、能の役割の説明・囃子方解説の補助映像を映します。

体育館への入場時に、ワークショップで上映した動画“バーチャル能楽堂体験”をスクリーンに投影します。ワークショップに参加できなかった児童・生徒さんや、ご来場の保護者の方にも宝生能楽堂の雰囲気をお楽しみいただきます。また体育館に設営された能舞台を比較しながら、その構造と意味をご理解いただけます。



1

かきやまぶし 狂言『柿山伏』

明快なストーリー、動物の鳴きまね等、大変分かり易い人気曲目。

近年では小学校の国語教材として採用されている最も認知度の高い狂言です。
まずは笑いたっぷりの狂言を観て、能楽の楽しさに触れていただきます。

柿山伏のあらすじ

修行を終えた山伏が、帰り道にのどが渇いたので、畑に入り、勝手に柿を食べ始めます。夢中になって食べているところに畑主が現れます。盗み食いを見つけた畑主が怒鳴りつけると、山伏は気づかれまいと木に隠れます。畑主は少し山伏をからかってやろうと、“あれは犬だ、猿だ”と言って鳴き真似をさせます。さらに愉快になった畑主は“鳶だ”と言って、山伏を高い梢から飛ばせます。勇気を出して飛び降りた山伏は・・・



2

囃子方の実演と解説

まずは迫力のある4つの楽器（能では“お道具”と称されます）の演奏を聴いてもらいます。



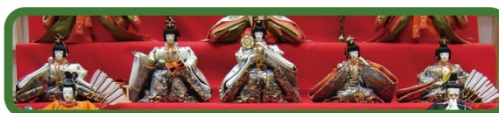
あれ？
どこかで見たような？

お雛様かな？

本当だ！お雛様！



そうです！



雛人形でお馴染み

五人囃子のモデルです



どのようなきっかけで演奏されているのか？

能楽堂では行わない実験演奏をご披露します。



囃子方にとって「ハア～ヨー」という“掛け声”が大変重要です。

掛け声がきっかけで、演奏の強弱や調子を変え、またシテ方などの演技の合図ともなります。それを分かり易くご覧いただくために、囃子方4名が、それぞれが見えないよう四方を向いて座り、掛け声のみを合図に演奏をします。

①

囃子方の四人が、他の人が見えないように四方を向いて座る。

②

演奏が始まる。

③

正座をしていたシテ方が、立ち上がり舞台の中央で足拍子を踏む。

④

突然、太鼓の音が早く大きくなる。

⑤

笛、小鼓、太鼓の演奏も早く激しくなる。

⑥

“ヨー”という太鼓方の長く大きな掛け声。

⑦

ピタッと演奏が止まる。



各楽器（道具）の説明



笛



笛は、唱歌※が記された教本で旋律を覚えます。
まず笛で演奏し、それを笛方が声で表現します。
その後、唱歌をスクリーンに映し、児童・生徒さんがゲーム感覚で

ヒウラウラウラウラ♪

と唄い、それに笛方が演奏を加えます。

小鼓・大鼓



小鼓と大鼓は、非常に湿度や温度に敏感な楽器です。小鼓は湿気が必要とするのに対し、大鼓は皮をカラカラに乾燥させて独特な高音を奏でます。大鼓は必ず公演前に皮を焙じます※。

スクリーンに能楽堂の焙じ室を映し、実際に焙じている様子をご覧ください。また両方の楽器の音色の違いを実演し、その特異性をご説明します。

太鼓



太鼓は、真ん中の小さな桴草※をねらって打ち、激しい音を出します。その構造をご説明しながら、叩くリズムを、児童・生徒さんも手拍子と一緒に練習してもらいます。

スクリーンで拡大



各楽器の外観や構造を、まんべんなくご覧いただくため、スタッフがライブカメラを用いて、その場で映し、スクリーンに投影します。



3 能の役割の紹介

能は、シテ方と三役と呼ばれるワキ方・狂言方・囃子方の4つの役割が一体となって演じられる芸能です。口頭だけでなく、それぞれの役割や装束の違いをスクリーンに投影して、立体的にご紹介します。

		役割	能「黒塚」の場合
シテ方	シテ	主役	老婆／鬼女
	地謡	コーラス隊・心情や情景を謡う	
	後見	舞台進行係	
ワキ方	ワキ	脇役 シテの相手役	山伏祐慶
	ワキツレ		同行の山伏
狂言方	アイ	前後半の間をつなぐ役割	能力
囃子方		合奏隊(笛・小鼓・大鼓・太鼓)	



「黒塚」の登場人物です。



老婆(前シテ)



鬼女(後シテ)



ワキ方

山伏祐慶



狂言方

能力

宝生能楽堂の写真展示

客席からの目線・舞台からの目線、さらには楽屋の様子など、普段は見る事ができない能楽堂の様子を多角度からご覧いただけます。

能面は下に傾けると悲しげ、上に傾けると明るい表情に変わります。チョットした角度で変化する能面の不思議を知ることができる特殊面掛けをご用意。



実際に体験することができる能面



能楽師がご指導をしながら、気軽に顔に掛けてもらえる体験です。ワークショップで体験できなかった児童・生徒さんや近隣の方など、開演前、休憩中、終演後にお越しください。その視界の狭さと装着感を体験してください。

能と狂言の足袋を展示



能楽師と狂言師は、舞台で使う足袋が異なります。特に狂言足袋は色の秘密が隠されています。その由来のご説明文と、実際の足袋を展示します。

能の装束、狂言の装束を展示

能楽師の主役が着用する華やかな唐織※や、狂言装束の代表格である絵柄がユニークな肩衣※など、能装束と狂言装束の模様・素材の違いを、間近でご覧いただけます。



ワークショップにはなかった頭（カシラ）と扇を体験

黒塚の鬼女が被る頭。鬼の恐ろしさを演出します。何の毛で出来ているのかわかりますか？なんとヤクの毛！

扇はただ開くだけでなく、能楽の開き方があります。能楽師が指導をしますので、自分も能楽師として体験してください。



休憩後の『黒塚』を鑑賞する前に、もう一度ワークショップで習ったことの内、3つのおさらいをします。

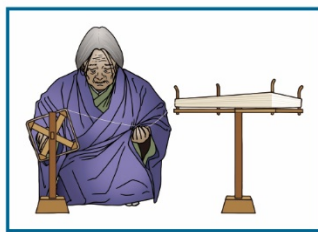
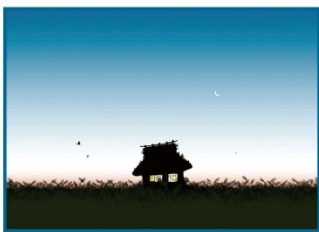
① 『黒塚』の最後に能楽師と一緒に謡う附祝言『千秋楽』

② 前半の老女が悲しさのあまり泣く時の所作“シオリ”

③ 『黒塚』のあらすじと、みどころ



舞台に出てくる作り物は、黒塚の演出において重要な役割をする大道具です。それは野原の一軒家、老婆の家の中、そして老婆の寝室へと変幻します。実際にあらすじ説明の時に、舞台上に出て、より黒塚への興味を引き立てます。



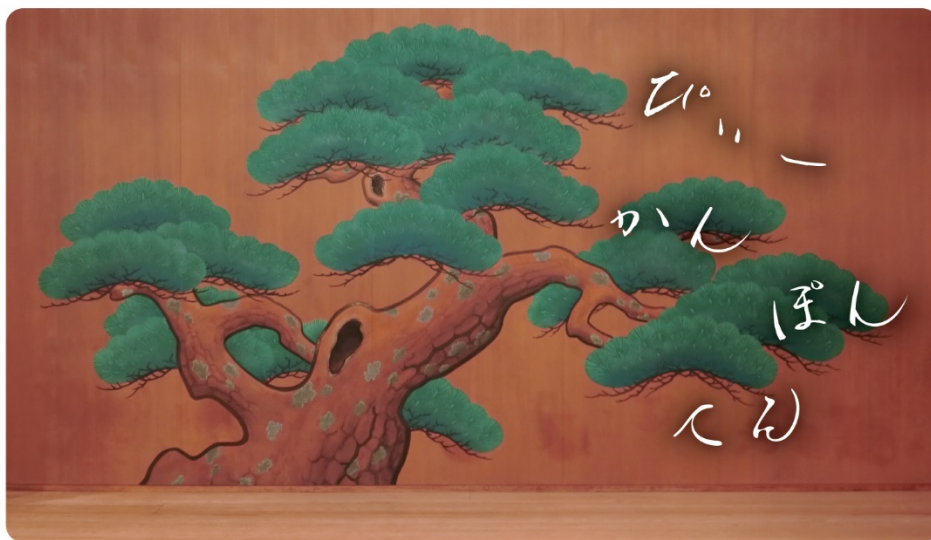
?

なぜ、おばあさんが鬼になってしまったのか？
考えながら舞台を見てみましょう

?

能舞台裏から、囃子方が奏でるお調べが聞こえてきたら、いよいよ能が始まります。

これからご鑑賞いただく『黒塚』には、ワークショップでの体験や、
本公演前半の実演・解説のエッセンスが全て集約されています。
気持ちをゆったりとさせ、体育館で繰り広げられる能楽の世界をたっぷりご堪能ください。





黒塚のあらすじ

諸国を行脚する山伏一行、奥州安達原にさしかかった時、日が暮れてしまいます。野に灯る明かり。それを頼りに、一軒のあばら家にたどり着き、一夜の宿を請います。そこに住む老婆、やむなく山伏たちを家に招き入れます。老婆は山伏たちをもてなそうと、身の上を話したり、「糸くし」の歌を歌ったりしてみせます。夜はだんだんと更け寒さが増していきます。老婆は「寝屋だけは絶対に見ないように」と言い残し、暖をとる薪を集めに山に出かけて行きます。しかし、お供の能力が好奇心からこっそりと寝屋をのぞいてしまいます。するとそこには、なんと山のように積まれた人の死骸。山伏たちは、ここは鬼の棲み家で、あの老婆は鬼女だと知り、急いで家を逃げ出します。山から戻った老婆、裏切られたことを知り、怒りで本性を現し鬼女となり山伏たちを追います。【ここでシテは老婆(前シテ)から、鬼女(後シテ)となり、装束・能面を変えて登場します】そして鬼女は追いつき、山伏一行に襲い掛かりますが、最後に鬼女は、山伏の懸命な祈りによって倒され、自分の姿に恥じ入りながら悲しく消え去ります。

スクリーン投影

シーン説明

のほら ふうけい
それまで野原だった風景が
いっしゅん
一瞬にして、おばあさんの
いえ なか
家の中になります。



セリフがないシーンも情景がわかる説明を投影

台詞

こえ
ひとり、声をあげて
な あ
泣き明かすのです。



台詞

わたし もど
そうそう……。私が戻るまで
ぜったい しんしつ
絶対に この寝室をのぞい
ては、いけませんよ。



台詞

こころ みだ おそ
心も乱れ、恐ろしい。
こころ みだ おそ
心も乱れ、恐ろしい。
に
とにかく逃げて、逃げて、
とお はな
速くへ離れよう。



台詞

ま やまふし
待て、山伏たち！
かく しんしつ
あれほど、隠していた寝室
み
を見られてしまった。



台詞

てん ち いばしゅ み
天と地に居場所もなく、身を
ちぢめ、目くらみ
あし しろしろ
足もとは、ヨロヨロとさまよう。



6

アフタートーク

『黒塚』についての出演者からの問いかけと、皆さんからの質問

解説役の能楽師と、さらに主演の老女と鬼女を演じた“おシテ”（主演）が役を終えて、人間にもどって再度舞台に登場します。



『黒塚』にはその前段になる「黒塚伝説」があります。その伝説をイラストなどを、交えてご紹介します。鑑賞を終えた高揚感に包まれている時に、さらに能の奥深さを、体に吸収します。



?

どうして優しくったお婆さんは、
鬼になってしまったのかな？

?

能力が勝手に
部屋を見たから。

裏切られて
悔しかったから。

山伏達がお婆さんに内緒で、
帰ったから。

それでは実際に、鬼に聞いてみましょう！



まずは出演者から質問を投げかけます。それに自由に答えてください。
次に観たままの児童・生徒さんの率直な質問をお受けします。



7

公演後 動画を配信 (本事業での内容を集約)

本公演終了で、この事業は終わりません。

本当の価値は児童・生徒さんが、その体験や鑑賞を友達と、また家族の皆さんと共有してもらうことです。

「能面を顔に当てると見づらいよ」「大きい声で千秋楽を謡ったよ」「迫力があったよ」という感想をご自宅で話してもらう事は、もちろんですが、さらに家族みんなで様子を映像で観ることが出来れば、より臨場感を持って子供たちの豊かな発想や感激を知ることができます。



能楽を通して家族の新しいコミュニケーションに役立ててください。



派遣者数
出演者:19名 スタッフ:7名

タイムスケジュール（標準）
①8:30以降 スタッフ学校到着 ②9:00~11:30 搬入・舞台・楽屋設営 ③11:30~12:00 出演者到着・到着後場アタリ ④13:00以降 児童・生徒さん入場 ⑤13:25 学校さんの挨拶(ご要望に応じて) ⑥13:30~15:10 本公演【前半約40分 休憩10分 後半約50分】 ⑦15:30~17:00 舞台・楽屋片付・搬出 (16:00頃 出演者学校発) ※体育館の条件(階数や搬出入の距離)により②を早め、また⑦に幾分多めの時間を要する可能性があります。

実施校への協力依頼人員
舞台・楽屋準備において、特段お手伝いは不要です。

演目解説
プログラム内の、あらすじなどをご参照ください。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫
○ワークショップで覚えた能の謡が、実際の演能「黒塚」で演じられる。 ○ワークショップで体験した能の動き(所作・謡い)を、解説また演能で立体的に体感。 ○ワークショップで体験した狂言の発声を、本狂言により、笑いを通して体感。 ○バーチャル能楽堂:能楽堂を目線カメラで撮影したオリジナル動画をワークショップで体感。本公演当日は、それを模した本格的な能舞台で能楽を、目の前で観劇する。 ワークショップで体験した「構え」「運び(スリ足)」を能楽師が基本動作として演じていることを発見。 ワークショップで狂言師と一緒に体験した狂言のしぐさやセリフが能舞台で演じられ、その迫力を実感。

はじめて 能楽

難しいと思われがち

能楽を楽しんでもらう為の工夫

1 能楽とは？ 能と狂言・二人の兄弟が一つになって能楽です

能楽の楽しさは、能と狂言の、異なる性格と役割を知るところから始まります。

ワークショップ

ワークショップでは、能役者と狂言役者それぞれが、演出の違いを分かり易く実演・解説します。



本公演

本公演では、大変ポピュラーな、狂言「柿山伏」・能「黒塚」を上演します。狂言のセリフ古典劇、能の優美な歌舞劇の両面から、能楽の魅力にアプローチします。



2

体育館に異空間が出現！こだわりの能楽堂

能楽を観るなら雰囲気も大切



初めて能楽を鑑賞する児童・生徒さんに、能楽の良い印象を残すには、能舞台は必須です。
各校の体育館の形状に合わせて、本格的な舞台を特設します。

能楽堂では味わえない臨場感



役者の息遣いや、足音まで聞こえるギリギリの場所まで、座っていただきます。

理解を深める字幕や映像の投影



黒塚」の現代語字幕や、役割の紹介など、鑑賞する際に理解を深めるツールとして設営します。
スクリーンは大型100インチ・後方からの投影型タイプにより、客席スペースに一切の制限を設けません。

3

能楽師と一緒に考えてみよう！ アフタートーク

本来の能楽公演ではみられないアフタートークをご用意しました。
鑑賞を終えた子ども達の率直な疑問・質問を、出演者が2段階に分けてお答えします。

1

能楽師からの質問

まず、間近で観た能「黒塚」のそれぞれの役を能楽師と一緒に振り返りながら、登場人物の心に思いをめぐらせます。



2

疑問・質問コーナー

過去の感想や質問例

- どうして着物が鬼の時には、変わっていたのですか？
- 柿山伏は、柿を食べて悪い人なのに、なんで魔法が使えるの？
- 糸を巻くあの機械は何のためにあるんですか？。
- 鬼女の役なので女の人だと思っていたら、男の人でした。女性の能楽師はいるんですか？
- あの棒はなぜ鬼の時しか持たないんですか？
- なぜ箱みたいなのが、おばあさんが出てくる場所なんですか？
- 一言一言声が大きくて喉は痛くないんですか？
- 低い声はどうやって出しているんですか？
- 囃子方が叩くときに何で「オー」っていうのか疑問に思いました。
- どうしてムチが光っていたのですか？ふつうのムチなら光らないはずなのに、どうしてですか？
- 黒塚のお話のおばあさんと鬼の時の役者さんは、同じ人なのかどうか気になります。

4 なぜ、能「黒塚」なのか

老婆はなぜ鬼女になったのか…？

…善悪の概念とは？

我々が心に抱く“喜怒哀楽”、それによっては善人が悪人になって罪を犯したり、
とてつもない恨みの感情を抱いてしまうことがあります。
普段の日常生活で善と悪を白黒つけることはよくありますが、
能で演じられる喜怒哀楽に善悪をあてはめることは簡単ではありません。

何百曲とある能の演目から「黒塚」を選択した理由は、
「黒塚」とまた前段となる「黒塚伝説」には、
能を通した人間の業の奥深さが秘められているからです。

老婆を鬼女にしてしまうほどの感情とその壮絶な背景。
それを知った鑑賞者は「鬼＝悪者」、
ひいてはすべてが表向きの善悪だけで説明できるという
固定観念を覆されることでしょう。

過去公演校からいただいた感想

- くろづかさん、ありがとう。（小学1年生）
- 鬼が来て怖かった。（小学1年生）
- 能の黒塚は、ちょっと難しかったです。家に帰って黒塚伝説を調べてみました。でもどうして鬼女になったか、わかりませんでした。（小学2年生）
- なんで鬼女は隠しているところがあるのに、うちに入れたの？（小学2年生）
- 鬼は怖かったけど、最初のおばあさんの時は、優しくでした。（小学2年生）
- 開けちゃいけないドアを開けて自分が、逃げちゃうのは、役だけちょっとひどいと思いました。（小学3年生）
- 山伏・祐慶が必死に呪文を唱えていて、ちょっと応援したくなりました。（小学3年生）
- みんな、おばあさんは最初は優しいとか言っていましたけど、私は最初も怖いと思いました。（小学3年生）
- 今度は黒塚に行ってみたいです。（小学3年生）
- 見てはいけないと言われても、何が入っているのかを見たくするのは分かるけど、見ちゃいけないから見なかった方がいいなと思った。（小学4年生）
- 黒塚の話は全体的に少し悲しい話でした。疑問に思ったことは、どうして寝室に人の死体をおいたのかです。（小学4年生）
- おにばばが負けた時、ちょっとほっとしました。（小学4年生）
- 鬼女が見るなと言った部屋を見られて、可哀そうだと思いました。（小学4年生）
- 鬼女がとっても怒っているときに、ママの顔を思い出して、今あらためると、ママには、いつも怒られるから、いつもがんばらなくちゃと思いました。（小学5年生）
- 能力が寝室を見なければ、こんな話にならないと思いました。（小学5年生）
- 老婆が鬼女になったのは、寝室を見られたからか、泊めて帰る前になろうとしていたのか、どちらなのか気になります。（小学5年生）
- 優しくしたおばあさんが、鬼女になったとき、開けなかったらどうなっていたのか、気になりました。（小学5年生）
- 鬼女はどこに消えたのかが、気になります。（小学6年生）
- それにしてもなぜ老婆は、鬼女になってしまったのだらうと思いました。（小学6年生）
- おばあさんが鬼女になったのは、昔に何かあって、鬼女と呼ばれるようになったのだと思います。
でも祐慶達を家に泊めたのは、心のどこかに優しさがあったからなのではないかと思います。（小学6年生）



能を鑑賞した子ども達の純粋な解釈と反応には、
私たち大人が気付かされることが沢山あります。



児童生徒とのふれあい
演能「黒塚」後、アフタートークをもうけます。児童・生徒さんが純粋に感じた疑問や、自由な感想を能楽師と交換していただきます。